

令和6年8月20日
旭川医科大学病院

抗凝固薬中断中に発生した腎梗塞による腎不全事例

1. はじめに

当院において、医療事故（以下「本件事故」という。）が発生いたしました。

患者さん、ご家族には大変な苦痛やご心配、ご不安を与えましたこと、あらためて深くお詫び申し上げます。

当院として、本件事故判明後、医療事故調査委員会を設置して再発防止策を検討いたしました。

委員会による調査等の結果、並びに本件事故判明後の対応は以下のとおりです。

2. 本件事故の概要

患者さんは、右腎癌に対する根治的右腎摘出術目的で、当院に入院されました。手術にあたり、抗凝固薬を休薬しておりましたが、右腎摘出術後、抗凝固薬再開前に、左腎動脈血栓症を発症し、その結果、左腎梗塞による腎不全を来し、今後維持透析が必要な状況となりました。

3. 本件事故の原因

診療科では血栓塞栓症のハイリスク症例であることは認識しておりましたが、術後ドレーンや硬膜外麻酔チューブが留置されていた期間は再開ができませんでした。

これら全てが抜去された後、数日で内服再開の指示が出されましたが、同日に左腎梗塞（左腎動脈血栓）を発症しました。抜去後直ちに抗凝固薬の再開がなされていれば、血栓症を回避できた可能性があるかと判断いたしました。また、血栓症の診断が夜間帯になり、処置や治療対応が遅れたことも病状進行に影響を与えたと判断いたしました。

4. 本件事故判明後の対応（再発防止策）

医療事故調査委員会にて再発防止策の検討を行い、以下のとおり策定いたしました。

- （1）術前休薬の再開時期を明確にし、多職種が確認できるよう環境を整備する。
- （2）手術日など病棟の人員が手薄な状況においても、検査結果を早期に確認をし、即時対応ができる環境および上級医との密な連絡等の体制整備を構築する。
- （3）患者参加型の医療の趨勢から、インフォームド・コンセントの際に薬剤休止のリスクなどの情報を患者さんへ提供する。
- （4）病棟薬剤師は術前休薬薬剤について、「術後の再開予定日」の医師への確認について、積極的に関与する。

以 上